



プロジェクト名称

いくべっ！福島支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

東日本大震災から3年が経過し、少しずつ復興の目処が立ってきているが、まだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の遅れが顕著である。また福島県の農家の方々は放射線量を下げするために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。このことが、市場に出回っている福島産の食品は安全であるのに、消費者に嫌悪されてしまう原因の一つとなっている。

そこで私たちは風評被害にスポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には、様々なイベントに参加し福島産のものを販売しながらの呼びかけや、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。

また、震災の記憶の風化防止ということも目的の一つとして活動を行っている。被災地にはまだ避難生活を余儀なくされている方や、支援の手を必要としている方が沢山いるが、震災から長い時間が経ち日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで講演会を開催するなどして、一般の方にも再度震災を考えてもらうための機会を提供している。そして、「福島は震災のあった場所」というイメージを払しょく出来るように、福島の優れている点などを発信するような活動を行っている。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2014年6月1日～9月30日

○大宮祭（学園祭） 5月18日

今年も出店をし、福島産の野菜を使用したもろきゅうと野菜スティックを販売した。準備段階ではトラブル等なくスムーズに進み、開場とともに販売を開始できた。天候に恵まれたため、冷えたもろきゅうはよく売れ、すぐに完売となった。そのため、もろきゅうを求めて来たが売り切れならば野菜スティックを、という方も多くいた。お昼前にはどちらも完売したが、準備する野菜の数を増やしておけば、より多くの人に福島の野菜を味わい、楽しんでいただくことができたという反省点も残った。

福島の野菜だからと買うことをためらうような方や、安全性を問うような方はおらず、多くの方から、おいしいという声掛けをいただいた。おいしくて安全な福島の野菜が受け入れられていて、風評被害などは全く感じなかったが、農家の方は今でも風評被害に悩まされているため、このような活動がささやかではあるが力になればと改めて思った。

また、本プロジェクトの活動内容について質問される方や、メンバーが着用しているTシャツを見て声をかけてくださる方もいっしょに、イベント時ならではの意義ある交流ができた。福島への関心をより持ってもらえる良い機会となっただろう。



<野菜の販売>



<会場>

○第 1 回現地視察 6 月 6～7 日

今年度に入って初となる今回の現地視察では、会津木綿をつかった工芸品を仮設住宅で生活している方が手作業で製造し、販売している「IIE」を訪問した。

私たちが今まで視察に行ったところでは、震災前後での違いや、風評被害の影響などについての話を伺ってきた。しかし今回行った IIE は震災後にできたものであり、代表の谷津拓郎さんは震災後に、東京から地元である会津に帰ったということで、今までとは違う視点での非常に興味深い話を伺うことができた。谷津さんによると、この事業を始めたのは、被災地の人々が苦しんでいる時に何もできないことがつらく、仮設住宅に住んでいる方々の生活改善に少しでも役立てられれば、という思いだったそう。この「IIE」という名前は“3.11をひっくり返す”という意味をこめており、子どもたちが帰ってきたいと思える土地にしたいとおっしゃっていた。また、谷津さんは、風評被害を払拭するというより、以前よりもっと良いものや新しい価値を見つけて行きたいという話をされていて、風評被害の払拭を目的に掲げている私たちとしては色々と考えさせられる訪問となった。

今回の視察のもう一つの目的が、福島の新たな魅力の発見だ。多くのひとに福島を紹介するために、鶴ヶ城やあぶくま洞めぐり、なかでもあぶくま洞は素晴らしかったので9月の福島ツアーでも再び行くことになった。



< I I E のパンフレットより >



< 鶴ヶ城 >



○東大宮サマーフェスティバル 8月1～2日

今年も、東大宮中央公園で毎年開催される東大宮サマーフェスティバルに参加した。昨年と同様に以前からお世話になっている福島県伊達市のみらい百彩館「んめ一べ」さんからキュウリとトウモロコシを仕入れ、モロキュウと焼きトウモロコシを販売した。

昨年の出店のときは予想よりも早く食材が売り切れてしまい、時間が多く余ってしまったことから今年は昨年よりも多く食材を仕入れた。しかし、販売初日では私たちの準備不足により予定していた販売時間より大幅に遅れてしまい、売り切れなかった初日分のいくつかの食材を衛生上の面から廃棄せざるを得なくなってしまった。また、調理の際に協力してくださった本学の食堂の人たちにも大きな迷惑をかけてしまった結果となり、メンバー全員が猛省するという形となってしまった。

販売二日目では前日の反省を生かし、販売時間通りに販売を始めたことで、仕入れた食材を余ることなく売ることが出来た。また昨年と同じく購入していただいた方に声をかけ笑顔の写真を撮らせていただき、それらをひとつにまとめてポスターを作成するという笑顔ポスター企画を行った。この笑顔ポスターは仕入れ先の「んめ一べ」さんやご協力していただいた福島の農家の方たちに送り、消費者の笑顔やおいしく食べたという気持ちを伝えるという目的である。

販売している際に「おいしいですね！」などの好評の声を聞いたことや「去年おいしかったので今年も買いに来ました。」というリピーターの方も来てくださっていたので、福島の食べ物のおいしさは着実に伝わっているのではないかと感じる事ができた。やはり消費者の方に実際に福島の食べ物を味わってもらうことは重要なことであり、結果的に風評被害の低減に微力ながらも貢献できたらと思うと同時に私たちもできるだけこういった活動を続けていきたい。



← <販売の様子>

↓ <笑顔写真(一部)>





〇いくべっ！福島ツアー 9月5日

今年で3回目となる福島ツアーを開催した。参加者は東大宮自治会の方々や留学生など多岐にわたり、多くの方々に福島県の魅力をアピールし、また学生プロジェクトとして一般の方々と広く交流を深めることが出来た。今年訪れたのは浜通りというエリアにある、あぶくま洞、ら・ら・ミュウ、アクアマリンふくしまの3か所である。

①あぶくま洞

およそ8000万年の歳月をかけ創られた鍾乳洞。一般コースと、オプションで冒険コースがあり、参加者にはそれぞれ好きなコースを選んでもらう形をとったが、冒険コースを選ぶ参加者が多く、神秘的な鍾乳洞の世界を思い思いに楽しんでいる様子うかがえた。

②ら・ら・ミュウ

市場と飲食店のある物産館で、各自ら・ら・ミュウ内の好きなお店で昼食とお土産の購入を済ませた。市場は賑やかで、声をかけてくれる方が多かった。また、飲食店の店員の方々も親切で、県民の方とふれあい、温かさを感じる良い機会となった。

③アクアマリンふくしま

福島県の「潮目の海」をテーマにした環境水族館で、水族館に加え、科学館や植物園としての機能もある。親潮と黒潮の合流する「潮目」を表現した三角トンネルは見ごたえ十分。参加者の楽しそうな笑顔が多く見られた。



↑ あぶくま洞

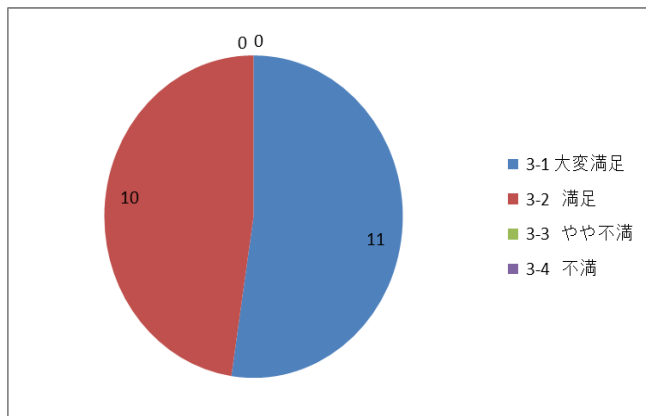


↑ アクアマリンふくしま

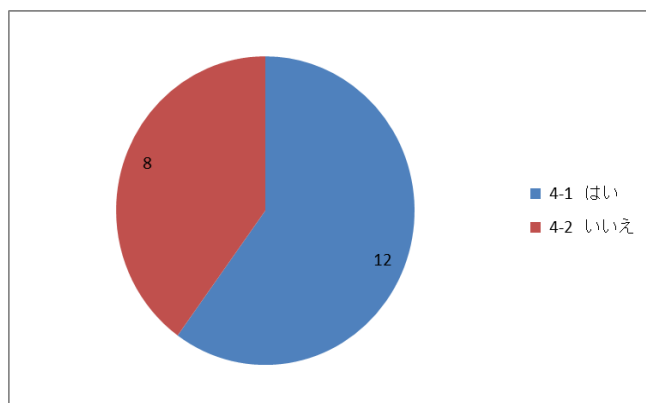


* アンケート集計結果 (参加者 21 人)

(1) ツアー満足度



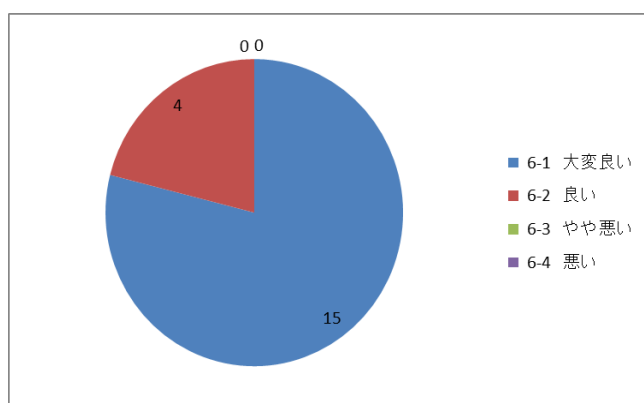
(2) 福島に対する印象は変わりましたか？



(3) どのように変わったか ((2)で「はい」と答えた方のみ)

- ・ 想像以上に回復が早いと思った。
- ・ 震災で大変だというイメージだったが、ら・ら・ミュウで働いている人が明るく元気だったので、大変ながらも頑張っているんだなと感じた。
- ・ 海通りにこんな良い場所があるとは知らなかったのが良かった。
- ・ 明るく生活している方が多いと感じた。(店員さんの対応等で)
- ・ 少しずつ発展していると感じた。

(4) スタッフの対応





対応についての意見

- ・ みなさん常に気をかけてくれてありがたかった。
- ・ 何事も一生懸命がうれしい。
- ・ みんな話が上手でスムーズに進んでよかった。
- ・ 学生さんもこういうイベントを通じ社会との接触を図ることは大変意義のあること。
- ・ 日常の会話を感じられ気疲れしなかった。
- ・ 1人1人役目が決まっていてチームワークが良い。

アンケート結果からわかるように、参加者の方々には自ら現地に足を運び、福島県の“今”を感じていただくことが出来た。これは私たちの「福島県に対する風評被害を減らす」という活動目的が達成された証拠あり、今回の福島ツアーは大変意義のあるものであったといえる。また、前回のツアーの反省を生かし、今回は『参加者との交流』を重視したツアーを企画した。具体的な対策とその効果は、

- ① 移動中に全員が参加できるクイズを用意し、参加者同士が交流するきっかけを作る。加えて、楽しく福島県を知って頂く。
- ② バスの席順を工夫し、プロジェクトメンバーと参加者が交流しやすい環境をつくる。結果的に、クイズを通して参加者の福島県に対する興味・関心が高まり、積極的に交流することで参加者とメンバーの間でお互いに意見を共有することができた。

今後の活動計画、目標、意気込みなど

今後行っていこうと考えているもので具体的な形として挙げられているものは、10月の終わりに開催される学園祭「芝浦祭」への参加である。私たちは毎年参加していて、今までは福島県の食材を用意し実際に食べていただくことで、福島県に対する良い印象を持っていただくことを目的としてきた。しかし今回は少し変化させたいということで、“展示会”という形の情報発信を考えている。方法としては以下を予定している。

- ①福島県を地域ごとに分ける
- ②各地域の紹介をする
- ③同時にその地域ごとの名産品などを販売する

この活動を行うことの利点として、例年共通するテーマであるが、第一に来場者の方々に福島県の良いイメージを持ってもらうことである。さらに芝浦祭で行うことにより、より多くの人たちに情報を発信していけることを期待している。また、このことにより今期の活動の目標である「学生を巻き込んだ活動」というのも満たせると考えている。

2014 年度

学生プロジェクト活動状況報告書 9月号



そして今後も新たな活動を行っていくつもりだが、その際情報収集をするために現地に視察へ行くことが必須になってくる。そのためこれからも定期的に福島県に行くことを考えている。また、現在は週に一度ミーティングを行っているが、活動をより良いものにしていくために今以上の頻度でミーティングを行っていくつもりだ。